



大雨・洪水

強い雨が続きとき、洪水災害の危険性が高まります。
最新の気象情報に注意して、早めの備えをお願いします。

洪水の基礎知識

洪水

洪水とは大雨によって、川の水の量が、ふだんより著しく増えた状態をいいます。

はん濫とは、川などがあふれ広がることをいいます。

川から水があふれることを「外水はん濫」といい、街や農地に降った雨が水路などで排水しきれなくなり、あふれることを「内水はん濫」といいます。

外水はん濫



内水はん濫



洪水に関する河川情報(西郷川)

川沿いでは情報に注意し、
すばやい行動を心がけましょう。



※福岡県河川情報で西郷川四角橋の水位を確認できます。
http://doboku-bousai.pref.fukuoka.lg.jp/gis_top/



防災メモ

洪水の危険度

スマートフォンで「キキクル(危険度分布)」と検索し、洪水キキクルのボタンを押すと、西郷川や八並川、手光今川などの洪水の危険度について確認できます。



気象庁危険度分布
(キキクル)

局地的大雨の危険性

近年は、ごく狭い範囲に強い雨が降り、中小河川のはん濫による浸水被害が起きています。発生の予測が困難で、大雨警報や注意報の発表基準に達していない雨でも災害が発生するおそれがあります。

特に中小河川では短時間で危険な水位に上がりやすいので注意が必要です。

低い土地にお住まいの方は、気象情報の雨雲レーダーで、雨雲の動きを的確に把握できます。テレビからはデータボタンを押して確認できます。貴重品は家の中の高い所へ、車は高台への移動をお勧めします。水の深みに入ると、エンジンが停止し、ドアや窓が開けられず脱出できなくなる恐れがあります。

もし、こんな場面にいたら・・・



天気急変に注意し、危険を感じたらすぐに身の安全を図ってください



空の状態

「急に真っ黒な雲が近づいてきた」
「雷鳴が聞こえる」「稲光が見えた」



川の状態

「水かさが増えてきた」「にごってきた」
「流木や落ち葉が流れてきた」



警報装置

サイレンの音が聞こえる



天気予報

「大気の状態が不安定」「雷」「天気の急変」などの表現がある



警報や注意報

雷注意報、大雨や洪水の警報・注意報が出ている



看板

「危険区域には立ち入らない」などの表現がある



レーダー等の観測情報 (携帯電話などで入手)

周辺や上流で雨が降っている

こんな時は **要注意!** >>>

総雨量は少なくとも、
短時間で甚大な被害が
発生することがあります

要チェック!大雨の危険を示す防災情報

大雨の増加に伴い、よく耳にするようになった気象庁の発表情報です。

線状降水帯

発達した雨雲が次々と列をなして線状に伸びる強い降水帯で、長時間にわたってほぼ同じ場所に停滞し、激しい雨を降らせます。

線状降水帯により大雨災害発生のおそれがある場合は、半日ほど前から気象庁がお知らせします。

記録的短時間大雨情報

数年に一度しか発生しないような短時間大雨（県内の規準は1時間雨量110ミリ）を観測したときに気象庁が発表します。「警戒レベル4相当」以上に該当します。この情報が発表された地域は、土砂災害や浸水、中小河川の洪水の発生につながるような猛烈な雨が降っています。

防災メモ

昭和28年6月大水害

福岡町史や津屋崎町史によると、昭和28年6月25日から九州一円を豪雨が襲い、宗像地方でも、6月25日から28日の4日間で、500ミリを超える降雨量であったとの記録があります。

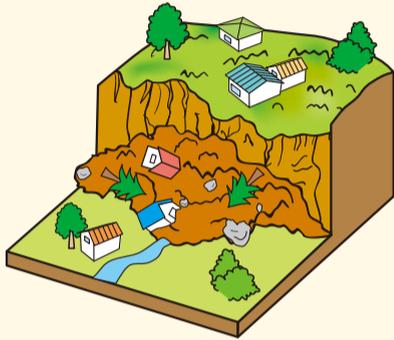


土砂災害

土砂災害は、長雨や集中豪雨などが要因になって、急傾斜地などで突発的に発生して、一瞬にして大きな被害をもたらす災害です。発生する場所や現象により「がけ崩れ」「地すべり」「土石流」の3つに分類されています。

土砂災害の種類と前兆

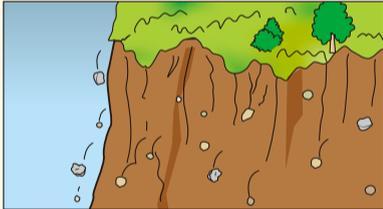
急傾斜地崩壊(がけ崩れ)



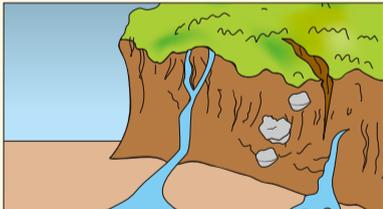
がけ崩れは、地中にしみ込んだ水分で斜面が突然崩れ落ちます。突然崩れ落ちるため、避難が遅れがちになります。また、地震が原因で起こることもあります。

前兆現象

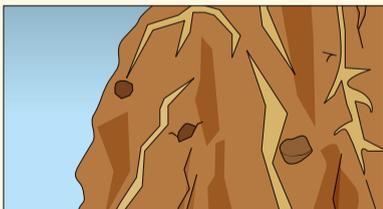
- がけから小石がぱらぱら落ちてくる



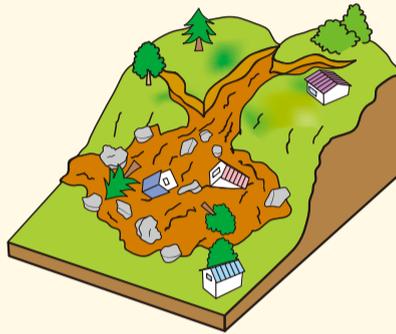
- がけから水が湧き出る



- がけに割れ目が見える



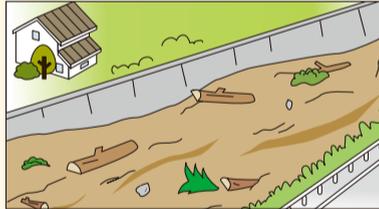
土石流



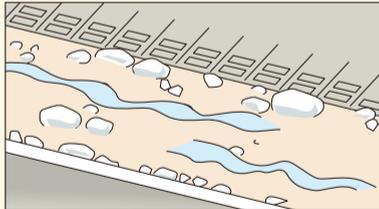
土石流は、谷間で起きます。大量の土・石・砂等が集中豪雨など大量の水と混じり合っ流れてくるので、速度が速く大きな破壊力を持っています。

前兆現象

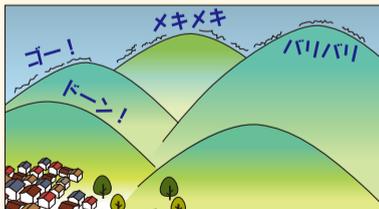
- 急に川の水がにごり流木が混ざる



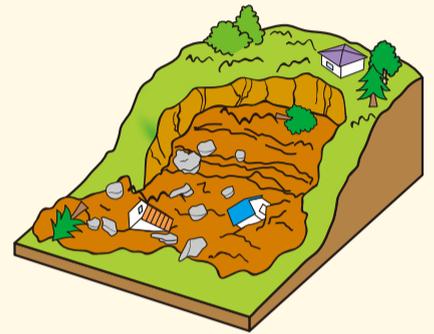
- 雨が降り続けているのに川の水位が下がる



- 山鳴りがする



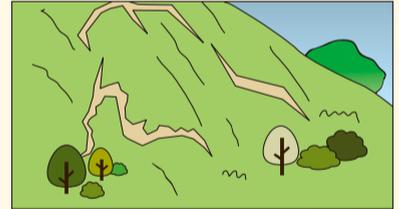
地すべり



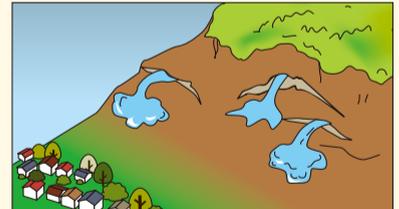
地すべりは、粘土などの滑りやすい地盤が一度に広い範囲で動き出します。速度はゆるやかですが、広い範囲に被害をもたらします。

前兆現象

- 地面にひび割れができる



- 斜面から水が噴き出す



- 井戸の水がにごる



大雨や台風、地震が起きたときは、地盤がゆるみ、土砂災害を引き起こす可能性があります。土砂災害から身を守るためには、まず自分の家の周りに危険がないか確かめることが重要です。放置されている竹林は地盤が崩れやすいので、細心の注意が必要です。所有者や管理者は適切な管理をお願いします。

土砂災害(特別)警戒区域

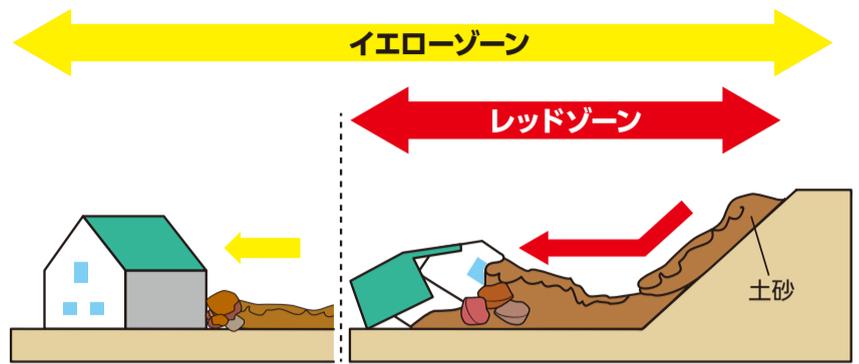
福岡県ではがけ崩れや土石流などの土砂災害から県民の命を守るため、土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域を指定しています。土砂災害のおそれがある区域を防災マップで確認し、自宅の近くに危険な場所があるかどうか調べてみましょう。

土砂災害 特別警戒区域(レッドゾーン)

建物が破壊されるおそれがあり、住民に大きな被害が生じるおそれがある区域

土砂災害 警戒区域(イエローゾーン)

土砂災害のおそれがある区域
土砂が到達するおそれがある範囲



土砂災害

避難行動のポイント

土砂災害は突発性が高く、甚大な被害をもたらします。

左図の前兆現象は、経験則として土砂災害発生の前に感じられるものとして知られていますが、特に特別警戒区域においては避難の猶予がほとんどないものと考え、「様子がおかしい」と感じたら、ただちに避難行動をとってください。

土砂災害警戒区域の中にある道路は行き止まりになることがあります。

避難所への避難経路を決めるときは、迂回ルートや、別の避難所への避難を検討してください。

- 1 土砂災害特別警戒区域内、また指定が無くとも「谷の出口」や「がけの下」からは、いち早く退避する。

☆土石流(特別)警戒区域では
垂直に避難する。



- 2 指定避難所までの移動が困難な際は、近隣の頑丈な建物の高層階へ避難する。



- 3 外出にも危険が伴う状況で、やむなく自宅に留まる場合は、2階以上の出来るだけ山側から離れた部屋に移動する。

☆急傾斜地(特別)警戒区域では、斜面から離れる方向に避難する。

土砂災害警戒情報

※土砂災害警戒情報は、土砂災害がいつ発生してもおかしくない状況になったとき、対象地域を特定して警戒を呼びかける情報で、福岡県と気象庁が共同で発表します。この情報が出たら、特に注意が必要です。

※土砂災害警戒情報が発表されていなくても、地形や地質の条件により土砂災害が発生するおそれがあるため、その他の防災情報や土砂災害の前兆現象などにも十分注意しながら、避難の判断を行なってください。



防災メモ

土砂災害の危険度

スマートフォンで「キキクル(危険度情報)」を検索し、地図の土砂災害ボタンを押すと、身近な土砂災害の危険度を確認できます。



気象庁危険度分布(キキクル)

危険度分布の5段階区分

黒	災害切迫【警戒レベル5相当】
紫	危険【警戒レベル4相当】
赤	警戒【警戒レベル3相当】
黄色	注意【警戒レベル2相当】
白(水色)	今後の情報等に留意





高潮

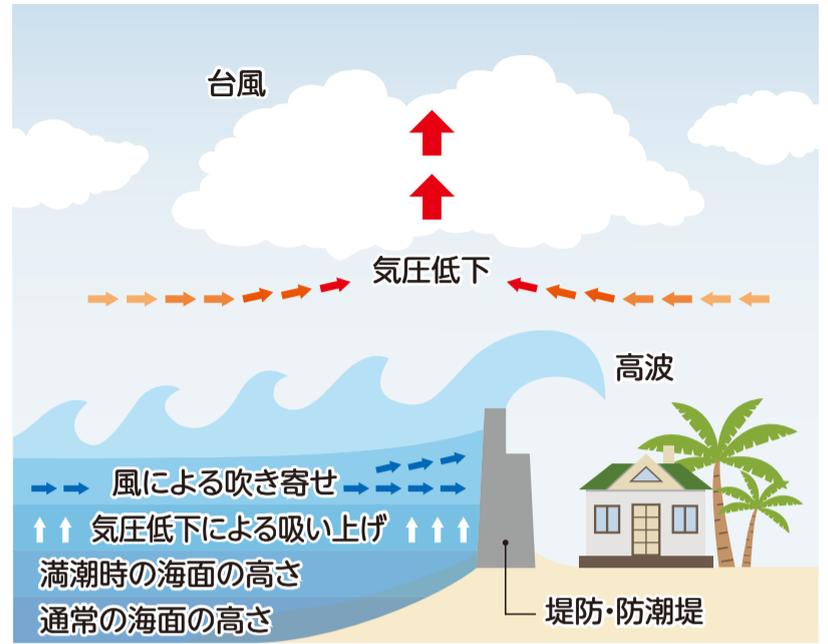
高潮が発生する仕組み

高潮とは、台風や発達した低気圧の接近により、海面が異常に高くなる現象です。

高潮が発生するとその高い潮位と波浪・強風により、海水が堤防を越えるようになり、背後地が浸水する可能性が高くなります。

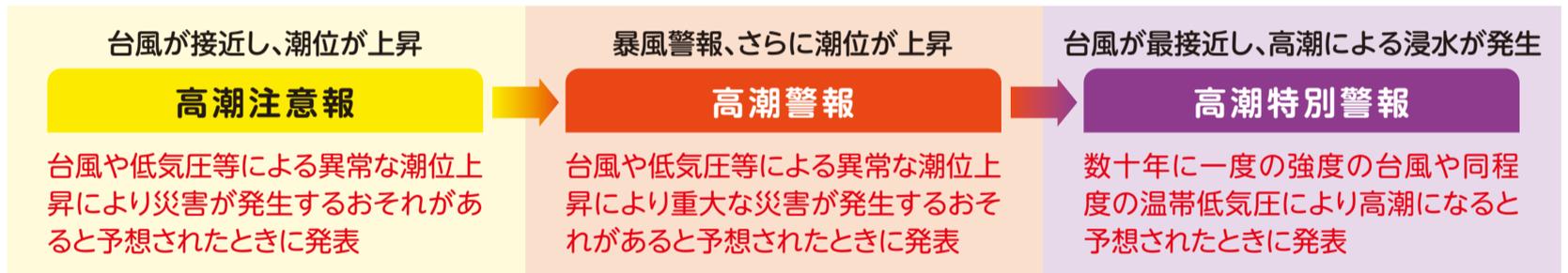
また、高潮が発生している海域に流れ込む河川があれば、高い潮位や波浪により河川の流れが阻害されます。

そのため、川沿いでは氾濫が発生し、海岸から離れた内陸部にまで被害を及ぼすこともあります。



高潮注意報・警報・特別警報

高潮が起きるような台風等の接近時には、潮位の上昇よりも先に暴風が吹き始めるため屋外への立退き避難が困難となります。暴風警報は、暴風が吹き始める数時間前に発表しますので、暴風警報が発表されたときは、高潮警報を待つことなく、高潮から命を守るために必要な避難行動を開始することが重要です。



被害が想定されるときには

- | | | |
|---|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> テレビやラジオ、インターネットなどで最新の防災気象情報を入手 非常用品や指定避難所等、避難経路を確認 災害に備えて、家の外まわりを点検 | <ul style="list-style-type: none"> 暴風域に入る前に早めの避難 緊急速報メールや防災行政無線など市からの避難情報に注意する | <ul style="list-style-type: none"> 隣近所の安全を確認する 避難時に支援が必要な方への支援を行う 災害情報、被害情報を収集する 協力して避難や救出活動などを行う |
|---|--|---|

防災メモ 高潮の危険度

満潮の時と、台風が上陸するタイミングが重なると、高潮の危険が高まります。

台風が市の西側を通るときは、特に風に警戒を強める必要があります。台風の進路に加えて、台風が福津市の東側を通るのか西側を通るのかにも注目して、予報を見てみましょう。

防災メモ 津波の水位、到達時間

県では、津波防災地域づくりに関する法律に基づき、津波浸水想定を設定しています。

市の最大クラスの津波想定(西山断層地震)は、影響開始時間が地震発生1分後で標高水位20cm、最高津波到達時間が地震発生8分後で標高水位3.8mという予想が出ています。





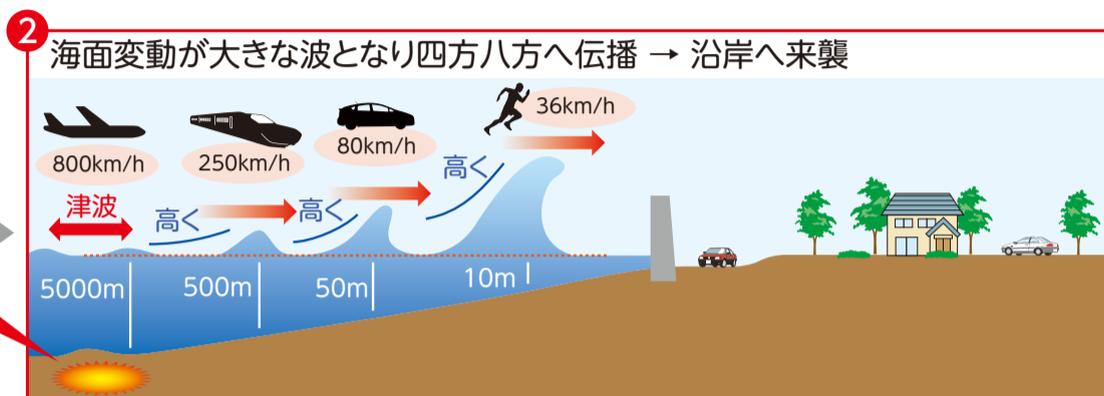
津波

気象庁では、津波による災害の発生が予想される場合に、地震が発生してから約3分を目標に津波警報(大津波、津波)または津波注意報を発表します。

津波とは

海底下で大きな地震が発生すると、断層運動により海底が隆起もしくは沈降します。これに伴って海面が変動し、大きな波となり四方八方に伝播するものが津波です。逆に、水深が浅くなるほど速度が遅くなるため、津波が陸地に近づくと、後から来る波が前の波に追いつき、波高が高くなります。

津波の速度と高さ



津波警報・注意報の種類

※大津波警報は特別警報に位置付けられています。

津波注意報	津波警報	大津波警報
《1m》	《3m》	《5m、10m、10m超》
<p>予想される津波の高さが高いところで0.2m以上、1m以下の場合であって、津波による災害のおそれがある場合。</p> <p>海の中では人は速い流れに巻き込まれ、また、養殖いかだが流失し小型船舶が転覆します。海の中にいる人はただちに海から上がって、海岸から離れてください。</p>	<p>予想される津波の高さが高いところで1mを超え、3m以下の場合。</p> <p>標高の低いところでは津波が襲い、浸水被害が発生します。人は津波による流れに巻き込まれます。沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台など安全な場所へ避難してください。</p>	<p>予想される津波の高さが高いところで3mを超える場合。</p> <p>木造家屋が全壊・流失し、人は津波による流れに巻き込まれます。沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台など安全な場所へ避難してください。</p>
<p>【津波注意報のサイレン音】</p> <p>サイレン吹鳴時間 無音時間</p> <p>10秒 2秒 10秒 2秒</p> <p>※サイレン音は10秒吹鳴2秒休止の2回繰り返し</p>	<p>【津波警報のサイレン音】</p> <p>サイレン吹鳴時間 無音時間</p> <p>5秒 6秒 5秒 6秒</p> <p>※サイレン音は5秒吹鳴6秒休止の2回繰り返し</p>	<p>【大津波警報のサイレン音】</p> <p>サイレン吹鳴時間 無音時間</p> <p>3秒 2秒 3秒 2秒 3秒 2秒</p> <p>※サイレン音は3秒吹鳴2秒休止の3回繰り返し</p>

※津波のおそれがあるときには、防災行政無線からサイレンを吹鳴し、サイレンの後に音声放送を行います。

津波が発生したときには

海岸や川の近くで地震の揺れを感じたら、速やかに避難しましょう。津波が海岸にやってくるのを見てから避難を始めても間に合いません。

- 小さな揺れでも油断禁物**
小さな地震でも、長い時間ゆっくりとした揺れの場合、津波が来ることがあります。
- 高い場所へ避難する**
海岸からはなれ、「より高い」場所へ避難しましょう。
- スピードは速い**
「注意報」や「警報」が出る前に来る津波もあります。海岸近くにいる時に揺れを感じたら、ただちに避難しましょう。
- 繰り返し来る**
津波は繰り返し襲ってきます。また、第1波が最大の高さになるとは限りません。波が落ち着くまでは注意しましょう。
- 引き潮がなくても注意**
震源付近の地形によっては、引き潮が起こることなく大きな波が押し寄せる場合もあります。
- 大潮の満潮のときは特に要注意**
満潮のときは水位が高くなっているため、被害が大きくなります。
- 正しい情報を聞く**
テレビ、ラジオ、インターネットなどで正しい情報を入手しましょう。
- 河川に近づかない**
津波は河川をさかのぼり、内陸深くまで進入することもありますので、河川に近づかないようにしましょう。
- 海岸に近づかない**
注意報、警報が解除されるまで海辺には絶対に近づかないようにしましょう。
- 海上では**
船舶は無線などの情報ですみやかに行動しましょう。

津波



地震

緊急地震速報

「緊急地震速報」は、震度5弱以上の揺れが予測された時に、震度4以上の揺れを予測した地域に対して、気象庁から発表されます。この数秒～数十秒後に強い揺れが始まりますので、ただちに身を守るための行動をとる必要があります。ただし、震源域に近い地域では「緊急地震速報」が強い揺れに間に合わないことがあります。



地震発生時の時間経過別行動マニュアル

グラツときたら 地震発生! 最初の大きな揺れは約1分間

- まず、自分の身を守る安全確保
- ドアや窓を開けて逃げ道を確認

1～3分 揺れがおさまったら

- 火元を確認し、ブレーカーを落とす
- 靴をはいて外に出る
- 家族の安全を確認
- 沿岸部は津波にそなえて高台へ避難

5分 みんなの無事を確認 火災の発生を防ぐ

隣近所に声をかけよう

- 一人ぐらしの高齢者などの安全を確認

出火防止 初期消火

- 初期消火
- 余震に注意
- 漏電・ガス漏れに注意

10分 ラジオやスマートフォンなどで正しい情報を得る

- けが人や行方不明者がいないか確認
- デマにまどわされない
- 電話は緊急連絡を優先する
- 防災情報、避難情報を確認する
- 避難時に車は極力使用しない

数時間 協力して消火活動、救出・救護活動

- 水、食料は蓄えているものでまかなう ※3日間の飲料水と食料の備蓄をしておく
- 災害・被害情報の収集
- 助け合いの心が大切
- 無理はやめよう
- 壊れた家に入らない

地震

屋内にいた場合

- 家の中
 - 裸足で歩き回らない
- デパート・スーパー
 - 柱や壁ぎわに身を寄せる
- マンション・集合住宅
 - ドアや窓を開けて避難口を確保する
 - エレベーターは使わない
- ホール・映画館
 - 座席の間に身を隠す

屋外にいた場合

- 路上
 - 落下物に注意し、ビルのそばから離れる
 - ブロック塀や自動販売機などに近づかない
- 車を運転中
 - ハンドルをしっかりと握り、徐々にスピードを落とす
- 海岸付近
 - 高台に避難する
- 山やがけ付近
 - 落石やがけ崩れに注意する



火災

1人で消せるだろうと考えず、隣近所に火事を知らせ、すみやかに119番通報を。
初期消火で火事を消せなかったら、すばやく避難しましょう。

初期消火の3原則

1 早く知らせる

- 「火事だ」と大声を出し、声が出なければやかんなどを叩き、隣近所に異変を知らせる。
- 小さな火でも119番に通報する。当事者は消火に当たり、近くの人に通報を頼む。

2 早く消火する

- 出火から3分以内が消火できる限度。
- 水や消火器だけでなく、座布団で火を叩く、毛布で覆うなど手近なものを活用する。

覚えておこう!「119」のかけ方

119番通報では、次のような内容を落ち着いて正確に答えましょう。



- ①火災が発生していること
- ②出火場所の住所はどこか
目印になる建物・施設なども
- ③何が燃えていて、火災の規模はどの程度なのか
- ④けが人や逃げ遅れた人はいるか
- ⑤通報者の名前と電話番号

火災の問い合わせは ☎ **092-791-1679**

初期消火のコツ

油なべ	電気製品	衣類
水をかけるのは厳禁。消火器がなければ濡らした大きめのタオルやシーツを手前からかけ、空気を遮断して消火を。	いきなり水をかけると感電の危険が。まずコードをコンセントから抜いて(できればブレーカーも切る)消火を。	着衣に火がついたら転げまわって消すのも方法。髪の毛の場合なら衣類(化繊は避ける)やタオルなどを頭からかぶる。
ストーブ	カーテン・ふすま	
消火器は直接火元に向けて噴射する。石油ストーブの場合は粉末消火器で。消火器がない場合は、水にぬらした毛布などを手前からすべらせるようにかぶせ、空気を遮断する。	カーテンやふすまなどに火が燃え広がったら、もう余裕はない。引きちぎり蹴り倒して火元を天井から遠ざけ、その上で消火を。	

3 早く逃げる

- 天井に火が燃え移った場合は、速やかに避難する。
- 避難するときは、燃えている部屋の窓やドアを閉めて空気を絶つ。
- 濡らしたタオルやハンカチなどで口と鼻を覆う。
- できるだけ姿勢を低く、身をかがめて避難する。



消火器の使い方

粉末・強化液消火器の場合



安全ピンに指をかけるように引き抜く。



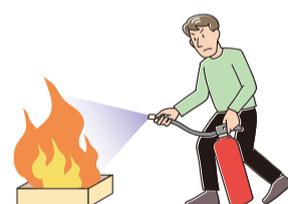
ホースをはずして火元に向ける。



レバーを強く握って噴射する。

消火器のかまえ方

- 風上に回り風上から消す。炎には真正面に向き合わない。
- やや腰を落として姿勢をなるべく低く。熱や煙を避けるように構える。
- 燃え上がる炎や煙にまどわされずに燃えているものにノズルを向け、火の根元を掃くように左右に振る。



火災予防が一番!! - 住宅用火災警報器の設置義務化 -

消防法の改正により、住宅用火災警報器の設置が義務付けられました。命を守るために設置しましょう。

火災警報器の設置場所

- 寝室および「寝室に行く階段」の天井への設置が必要です。
- 台所への設置もおすすめします。

住宅用火災警報器は、設置して約**10**年が交換の目安です!

住宅内取付位置図

